

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	9	6	0	19	6	32	17	0	12	総調査ほ場数: 65か所 総調査株数: 1,625株 花調査ほ場数: 65か所 総調査花数: 3,250花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ 年比 = (本年平均値 / 前年値) × 100 ※ アザミウマ類の調査は花調査かつ前年値は過去5年の値
	本年平均値	13.8	9.2	0.0	29.2	9.2	49.2	26.2	0.0	18.5	
	前年値	3.2	20.3	6.9	8.9	6.0	49.5	40.5	0.0	27.5	
	前年比	431.3	45.3	0.0	328.1	153.3	99.4	64.7	-	67.3	
株率	発生株数	0	8	0	0	42	153	42	0	30	○ 今月の病害虫発生状況 ○ ・ 灰色かび病の発生はやや少ないです。 ・ 炭疽病、萎黄病が散見されるほ場が増加しています。 ・ アブラムシ類の発生はやや多く、多発ほ場が見られます。 ・ アザミウマ類の発生は前年並ですが、発生ほ場が増加しています。
	本年平均値	0.0	0.5	0.0	0.0	2.6	9.4	2.6	0.0	0.9	
	前年値	0.1	1.5	0.4	0.1	0.6	17.3	10.7	0.0	2.3	
	前年比	0.0	33.3	0.0	0.0	433.3	54.3	24.3	-	39.1	
概評		前年並	やや少	少	前年並	やや多	前年並	前年並	少	前年並	

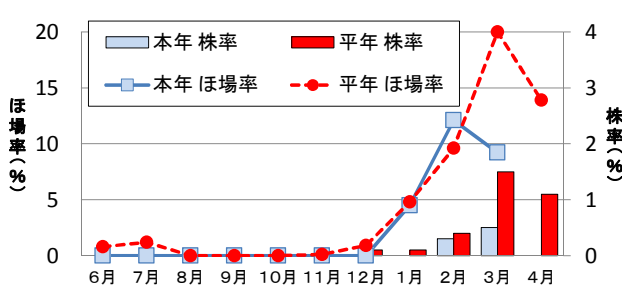


図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

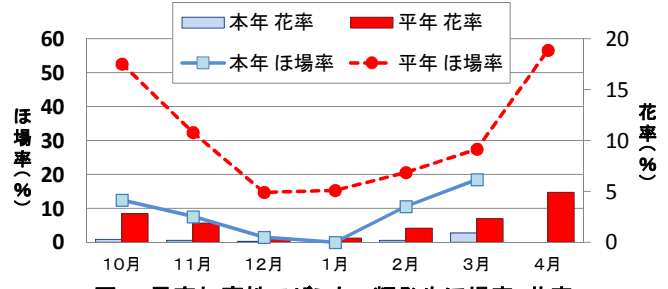


図2 果実加害性アザミウマ類発生ほ場率・花率

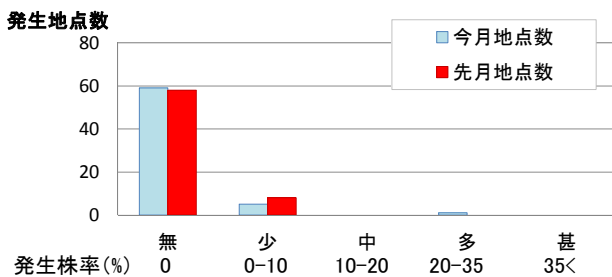


図3 発生程度別の地点数(灰色かび病)

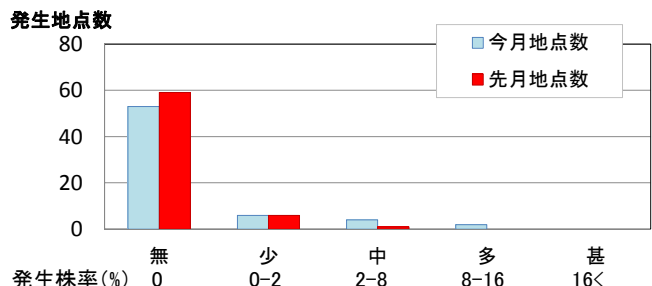


図4 発生程度別の地点数(アザミウマ類)

### ○灰色かび病対策

- ・換気をしてハウス内の湿度を下げるとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
- ・発病した果実、果梗等は伝染源となるため、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・発生状況に応じてダイマジンやカンタスドライフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ＊「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」を当センターホームページに掲載中。

### ○アザミウマ類対策

- ・発生が見られたら、低密度のうちにカウンター乳剤やマッチ乳剤[メカキイロアザミウマ]等のIGR剤で増殖を防止する。
- ・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなるおそれがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する(天敵やミツバチへの影響があるので注意する)。
- ＊ 秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では注意が必要である。
- ＊ 「植物防疫ニュース(速報No.14)」、「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果(続報)」を当センターホームページに掲載中。



写真 灰色かび病が発生した果実

### ○今月の技術情報(技術指導班)○(3月)

- ・3月に入り、周期的に天気や気温が変化中、気温の上昇や降雨の影響により、灰色かび病やハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が確認されており、今後も増加が懸念されます。
- ・気温の上昇に伴って、株が繁茂しやすい時期なので、不要な下葉等を順次取り除いて風通しを良くするとともに、病害虫の発生しにくい環境づくりを心がけましょう。併せて、早期発見と早めの防除に努めましょう。
- ・一方、親株の定植時期になりますが、定植ほ場の準備を万全にし、親株への病害虫の寄生がないかよく確認して定植しましょう。
- ・28年産では、本までの萎黄病の発生が多くなっています。次年産への対応も今うちから考えておきましょう。